

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成30年度第4四半期（平成31年1月～3月）

1. 治安情勢

- 1月7日、35歳のカナダ人女性がムンバイ市内の5スターホテルの従業員から性的暴行を受ける事件が発生した。容疑者は32歳のホテル従業員で、ホテルの客室内で被害者とセルフィーを撮る口実で室内に入り込み女性を暴行した。
- マハラーシュトラ州及びビハール州のテロ対策局は、プネ市チャカン工業地区で建設作業員として働いていたバングラデシュ人の男をバングラディッシュのテログループの活動に関与している疑いで逮捕した。逮捕時の捜索で、被疑者宅から偽造の身分証やISのポスターなどが発見押収された。
- グジャラート州の海岸線付近で、9人のイラン人がヘロイン100キログラムを密輸入しようとしたとして現行犯逮捕された。ヘロインはパキスタンから輸送されてきたとみられている。警察は情報を得て海岸線を捜索していたところ、不審船を発見。容疑者らは逃走を図ったが確保された。
- 最近ゴア州で頻発していたATM強盗の現場で発見された犯人の指紋と、同じく最近薬物所持で逮捕されたロシア人の指紋が一致した。4人のロシア人の容疑者らは、昨年12月観光ビザでゴア州に入り、アパートを借り、そこで大麻を栽培していた疑いで逮捕されていた。

2. 邦人に係る一般犯罪情勢

殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

- ア 殺人
邦人被害の事件は認知していない。
- イ 強盗
邦人被害の事件は認知していない。
- ウ 強姦
邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

5. 対日感情

良好である。

6. 犯罪発生状況

ムンバイ市警察本部は、2018年1月1日から12月31日までに認知した犯罪件数について統計を発表した。主な犯罪の認知件数は以下のとおり。

○ 殺人	164件	(前年同時期対比 +37件)
○ 強盗	963件	(同 +82件)
○ 傷害	5,198件	(同 +494件)
○ 恐喝	228件	(同 +33件)
○ 強姦	889件	(同 +138件)

- 窃盗 11,707件（同 -418件）
 - チェーン・スナッチング（※） 171件（同 +2件）
- （※）女性が首等に身につけている貴金属をひったくる犯罪

多くの罪種において昨年比で発生件数が増加している。特に性的犯罪については、被害に遭わないために常に人気のあるところを移動することを心掛けるなど注意が必要である。

インド国内各地において、ナイジェリア人の薬物の密売組織が暗躍している状況が見られ、当館管轄地域においても特にゴア州やムンバイにおいてナイジェリア人の薬物関連逮捕事案が多く発生している。様々な場面で薬物へのアクセスが可能と見られるが、違法薬物所持で逮捕されると10年以上の20年以下の懲役刑を科される可能性があることから、安易に違法薬物に手を出すことは厳に慎むべきである。

その他の犯罪について、直近で邦人に対する被害はなかったが、一昨年1月に、ゴア州を旅行中であった29歳の男性が、ビーチ付近でインド人らしき男に声を掛けられ親しくなり、一緒にカフェに行ったところ、そこで提供されたコーヒーを飲んで昏睡し、気がついた時には一緒に入店した男とともに旅券等の貴重品が入った小袋が無くなっていたという被害が発生した。同種の事件は過去にも多数発生している。特に、観光名所ではガイドを名乗る者が外国人に親しげに近づいてきて睡眠薬強盗を働いたり、女性に対して性的暴行を働くケースも散見されることから、見ず知らずの者の誘いには絶対に乗らないことが肝要である。